



フィグ・ヤーパン通信

第 35 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.35

発行日 2008 年 7 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

夢について

読者の方から、夢に関してのご質問がフィグ・ヤーパンに寄せられました。それは、夢はどこから来ているのか、また夢にはどのような役割と機能があるのかということでした。さらに、見た夢をどの様に記憶に留めたらよいかということや、夢を正しく解釈するためにはどうすればよいか、夢の中の体験をどのように実生活に活用したらよいか等、広範囲に渡るものでした。私たちはこの興味深い質問の内容をスイスに伝えました。その結果、FIGU スイスのシモーネ・リッカウアーさんから回答をいただきましたので紹介します。

□シモーネの回答

土曜日に行われた FIGU スイスの総会で、日本からの夢の質問について話し合いました。夢や夢の解釈の問題は、霊の教えの中心課題の一つです。ビリーは霊の教え書簡に、夢に関して何百ページも記していて、今も書き続けています。夢に関しては大変広範な内容を含んでいるために、多くの説明を要し、ここで短く回答することができません。そこで私たちは、夢に関して要約して書かれたページを霊の教え書簡から一部を抜粋することで、質問の一部について回答することにしたいと思います。

霊の教え書簡から抜粋

夢は多様きわまりないものであり、ありとあらゆる目的に役立つ。たとえば夢によって日中の体験が

処理され、進化のプロセスが遂行され、道徳や礼儀や倫理学などによって禁じられて果たせないでいる欲望が擬似満足によって満たされ、これから起こる事態や出来事などに対して警告が与えられ、苦悩や病気などの兆候が示される。夢はまた、心の問題、情緒、情動、意識の活動、感覚、身体の要求および器官の要求、その他多くの重要な事柄を解決したり、満たしたりする働きがある。たとえば夢によって有機的な身体機能が維持され、夢は身体の回復や器官の回復にさえも役立つ。夢はあらゆる無意識の領域、たとえば心の領域、そしてまた意識の領域、感覚領域、感情および潜在意識から送られる多かれ少なかれ重要な暗号化されたさまざまなメッセージを含んでいる。これらすべての要素はそれぞれ固有の無意識を持っており、したがって潜在意識の無意識だけを意味する限り、一律に無意識と呼ぶことはできない。この点で心理学者や精神科医、哲学者、その他の無知な人間は誤りを犯しており、個々の要素の無意識形態のテーマを知らないか、これに関する知識を欠いているのである。これらすべての無意識形態は、日中意識もしくは覚醒意識によって把握できる価値の把握領域の外部で働くものである。その背後には、夢は一方で特に幼児期からおよそ 20 歳になるまで脳の成熟に寄与し、他方で脳の健康回復、身体・器官の健康回復、器官の健康回復、身体・器官の発達完了したあとでそれらすべての機能の回復に寄与するという事実も潜んでいる。

以上挙げたすべての説明は、門外漢が夢のテーマにより深く取り組むようになるためには必ずしも適当ではないだろうが、夢の現象を究明し理解しようとするならばそれは必要不可欠である。同じことは、これに関して以下に行う他の多くの説明にも当てはまる。というのもしばしば非常に混乱しているように見える夢や、メッセージ、警告、確認、示唆などとして夢の中で受け取る象徴の意味内容に潜んでいるすべてを知ろうとするならば、まずこれに付随する一切の事柄を学び理解し、次に夢評価ができるようにならなければならないからである。そうして身につけた夢評価は日常生活においても人生においても、進化のため、および物事の処理のために有益である。しかし、まず自分が実際に夢を見るということを学んで確信しなければならない人間もいる。おそらく彼は何年も何十年にもわたり、眠った後でどんな夢体験も思い出すことができないのであろう。そのような人間は最初に夢を思い出す能力を身につけ、それを長期間訓練して、本人が実際に夢を見ることを自覚しなければならない。この点で、また夢睡眠の包括的、教示的な機能と説明や夢象徴の意味に関しても夢学は役に立つ。これに関連して、種々きわまらない夢の内容およびそれらとの適切な取り組みを詳しく正確に記述することも必要である。その場合に重要なのは、無意識形態がメッセージや示唆、証言や警告、そして処理プロセスを象徴によって暗号化された形でどのように発しているかを把握し、それらの意味を解読して適当な順序に並べ、そこから全体の流れと全夢体験のイメージを生み出すことである。

夢は他の多くの役割とならんで実践的な人生の助けでもある。人間は夢によって覚醒時に可能であるよりもはるかに多くのことを学び知るだけではない。というのも夢体験によって大小さまざまな人生問題が解決され、誤った内面的姿勢などが変更または修正され、そしてまた適切な決断を下すことが可能だからである。さらに人間にとって夢は、自己実現をより良く形成し、これを自分自身および人生とより正しく健全に調和させることができるようにする重要な可能性を提供する。したがって人間が自分の夢に注意し、解釈し、解明し、従うことを学ぶならば、認識と経験に対する生命力の貴重な源を見出す

が、この源は非常に大きな意味があるだけでなく、きわめて重要で汲み尽くせないものである。それゆえすべての人間にとって、自分の夢の意義と価値を究明し、この限りない源を自分自身の利益のために汲み出して使うことが賢明である。夢というものは、これは絶対に確かなことだが、一般に考えられているより、あるいは心理学者、精神分析学者、精神科医などが主張しているよりも大きく貴重な財産なのである。

夢は主として常にきわめて個人的な意味において、時にはまったく個人的な意味においてのみ観察、解釈、解明、そして理解されるものである。しかし例外もあり、夢体験が他人の幸せや悲しみ、あるいは世の中のなんらかの出来事などに関係することがある。だがそれは特定の性質の夢であり、むしろ非常に珍しく幻覚に近いものである。人間の夢は通常は純粋に個人的な性質のものなので、個々の象徴の慣用的な内容に従って一律に解釈したり解明したりできない。つまり象徴解釈でさえ一般的な内容のものにすぎないので、特別に相応の象徴（もしくは相応の複数の象徴）を伴う夢体験を見た当の人間にだけ該当する特殊な価値において解釈されなければならないのである。本当に夢を解釈し、解明しようとするならば、個々の象徴、行為、展開、色、音、調子、臭い、感情、感覚、そして言葉や話された内容などは、正しい順序で並べ替えて解読しなければならない。したがって個々の象徴を解読して解釈するだけでは決して十分ではないのである。これに反して、夢占い師はたいてい、ある夢の一般的な示唆か、具体的な判断のヒントとなる赤い糸さえ見つければ十分であると主張する。このような主張はナンセンスであり、詐欺であり、絶対的に事実に対し、夢解釈に知識も経験もまったく必要ないことを証拠立てるものである。個々の象徴の解釈は常に象徴価値自体の一般的価値においてしかなしえず、その結果、何らかの手掛かりが、各人の個人的価値を含まない普遍妥当な形態で認識されるにすぎない。各人の個人的価値は、別の因子と夢象徴価値が引き出されて一般的価値に組み入れられ、これと一緒に処理されて初めて生じるのである。

人間が自分の夢に注意を払うならば、自分の夢を評価して、相応の効用に従いさえすれば、より多く

の生きる喜び、内面的な安心や自信を得ることができ、それによって環境との接触も改善される。このことだけでも夢に注意を払い、夢を解釈および分析し、良い結果に従う理由となる。夢に注意を払うことは、心とその健康のためだけでも一生を通して続けるべきであることは自明であろう。

ここで再び夢の価値と古い時代の夢解釈に戻って、次のことを言っておこう。人類は夢の科学的な研究が始まった近代になって初めて夢とかかわったわけではない。すでに以前説明したように、太古の記録がそのことを証言している。これらの記録はキリスト教よりずっと古い神話や伝説、説話や宗教にさかのぼるが、その一方でそれらは今日の学者によって夢に関する記録としてはまだ認識されていない。これについて特に指摘されるのは洞窟壁画と、考古学者によってしばしば完全に意味を間違えて解釈される事物である。夢に関する解釈と考えられ認められている初期の伝承は、紀元前約2世紀にさかのぼり、人間がすでに古代においても夢に魅了され、それどころか不安にされていたことを物語る。この

事実はこの現代においても変わりはない。今日、夢と夢解釈について否定的な見解を抱く集団が幅を利かせ、また心理学、精神医学および精神分析学が混乱した命題を打ち出しているといったようなことは、本当の夢の意味からその価値を奪うものではない。もちろん現代の夢研究および夢解釈が非常に多くの優れた価値を見出したことは言うまでもない。しかしそれにもかかわらず19世紀末に近代的な夢研究が始まって以来、今なお多くの誤りを犯し、誤った道を進んでいる。このことは夢の現象を真に究明するには、まだ相当長い時間を要することを示唆している。とはいっても、近代の夢研究や夢作業はけっして古代や中世の夢研究の方法と比較できるものではない。なぜならば、それらは非常に多くの深い知識や、最新の装置と拡大された意識によってのみ獲得された認識を手にしてしているからである。それにもかかわらず、近代の夢研究と古代の夢研究の間には一般に考えられているよりも太い結び付きがある。古い夢研究と新しい夢研究との関係はかなり近く、しばしば驚くべき類似性を示すのである。

Q&A 質問と回答

□読者の質問

「超感覚的」という概念は本来何を意味しているのですか。それは正確にどのようなものであり、どんな働きをするのですか。(前号からの続き)

R. シュトレースラー (スイス)

□ビリーの回答

この質問に対する回答はかなり広範なものになる。というのも全体を簡単に数語で片付けることはできないからだ。あなたの関心を満たすために霊の教えから教材の一部を引用しよう。そこでは次のように説明されている。(前号からの続き)

超感覚的なもの、微細物質感覚、生気力

人間の想念と感情も、エネルギーとそこに含まれている力から成り、これらは電磁的振動により意識の産物として放射される。振動エネルギーとその

力は微小な微細物質感覚もしくは生気の情報単位から成る。これらの情報単位は個々にも全体としても1つの統一体を形成して、電線を通る電流のように、目に見えない形で脳から体へと流れ、最後に体から出て環境およびエーテルに到達する。さらにそこから鋭敏な人間もしくは微細物質感覚による知覚能力を備えた人間によって受け取られる。ある人間が死ぬ時に、瀕死の状態では合理的悟性とのつながりを失うと、微細物質感覚が優位になり、想念と感情の電磁エネルギーの放電を開始する。この時微細物質感覚的な想念と感情は爆発的に放射されて、遠く離れた場所にいる他の人間によって知覚される。これらはたいてい死にかけている人物と精神的な結び付きが強い人間である。これらの人間は、死んでいく人間の情報単位を生気もしくは微細物質感覚の電磁的振動によって受け取る。この電磁振動は強力な微細物質エネルギーを帯び、情報を力として内包している。ここで微細物質感覚の振動の周波数が決定的な役割を持っていることは言うまでもない。つま

りすべての人間が同じ周波数を受け取ることができるわけでもなければ、誰もがその微細物質感覚を同じ程度で、遠近さまざまなインパルスや情報に合わせて調整できるわけでもないのである。したがって精神的な結び付きにより、周波数がある程度等しくなければならず、それによって死んでいく人間やその他の同胞からメッセージを、物音、想念、感情、または視覚的イメージなどの形で受け取ることができる。もしそうでないとしたら、世界中のすべての人間が、全人類の微細物質感覚から一様に放射された無数の同じインパルスと情報を、同時に受け取ることになるだろう。しかしそのようなことは混乱を招くだけでなく、全人類はこのすべてのインパルスと情報の洪水を消化できないで発狂してしまうだろう。同様のことは、全人類が広く読心術、さらにはテレパシーの能力を備え、しかも特定の人間だけが想念を読み取ったり、特定の人間とだけテレパシーを使って交信したりできるような種々の周波数が存在しない場合にも起こるのである。このように単純な読心術もけっして単純な事柄ではない。本来のテレパシーについても同様であり、それは900,000キロメートルしか到達しない一次テレパシーであろうと、到達距離が無限の霊テレパシーであろうと変わりはない。これらすべての形態はいずれも、その能力を身につけている人間に対し、その脳と意識にとっても、また体全体にとっても非常に大きな試練ともなる。単なる読心、千里耳や千里眼、幻視（透視とも呼ばれる）の能力を極端な体験や出来事によって身につけた人間にとって、しばしばその悟性と健全な意識が危険にさらされる。その原因は、そうした体験からしばしばありとあらゆる類の不安状態が生まれ、ついにはそれらを克服できなくなって、統合失調症や意識障害に至ることにある。重大な出来事によって微細物質感覚の能力を身につけるに至った非常に多くの人間が妄想観念にとらわれる。なぜならば、突然出現した微細物質感覚の能力が彼らには荷が重すぎて、扱いきれないからである。それは、これらの能力を、最も簡単に不断の瞑想修練によって意識的に獲得した場合と逆である。重大な出来事により予期せず微細物質感覚的な才能が出現して、しばしば非常に大きな悲劇をもたらす。なぜなら、他人の妙な想念や感情、そしてまた他人の感受（こ

れは一般に誤解されているものとは異なり感情とはまったく関係がない）が、すべてを微細物質感覚で視覚できる当の人間の意識と心と肉体に重い負担となつてのしかかる。それは彼らには耐えきれず、彼らの人生を言葉の真の意味において地獄へ突き落とし、さらには破滅させるのである。

重大な出来事に関連して出現するのは、微細物質感覚的なものの知覚能力だけではない。というのも、大きな事故や重病やショック体験などの重大な出来事により、微細物質感覚ではなく、統合失調症の症状が現れるからである。しかもこれらの症状は、しばしば宗教的・教派的な状態を招来する。そういう状態が出現すると、それに基づく妄想観念により、たいてい当の人間は声を聞いたり、幻影を見たり、妄念を感じたり、また神やイエス、天使や聖人、地球外生命体、霊、死者、悪魔などから、いわゆるメッセージを受け取ったなどという妄信を抱いたりするようになる。

微細物質感覚は一般人にとっては生命にかかわる危険があり、悟性を危険にさらす恐れがあるので、これを意識的に習得する際も慎重に行う必要がある、意識や悟性と理性によって消化できないものを強制してはならない。実際、これを不適切な仕方（あるいは重大な出来事によって）身につけて応用すると、人間は獲得した能力によって何らかの分野で傑出した才能を獲得し、「専門馬鹿」になることもある。このような人間はたいてい社会的な組織の中に自分を組み入れることができなくなり、自分の場所を際限なく失って日常生活を送れなくなる。才能が極端な形で作用する結果、彼らには日常生活が重荷となり、支えきれなくなるのである。

適切な瞑想修練を積むことにより、他人の考え方や感情や感受に対して、最高度の共感の能力や、感受移入および感情移入の微細物質感覚的な能力も意識的に習得できる。すべてのことは微細物質感覚の発達およびその応用と利用の問題にほかならない。共感では脳全体に張り巡らされたニューロン（神経科医は「ミラーニューロン」とも呼んでいる）が非常に重要な役割を果たしている。というのもニューロンこそが決定的な要素だからである。

（次号に続く）

— UFO 地球外からやってきた宇宙船 — 最終回

1976年2月から数年間のペターレ水準による預言

1976年2月4日 水曜日 6:10

どす黒い煙を吐き出す鋭く尖った山々の下で、大量の地獄の炎熱が死の輝きを放つ。それらは砂や土や岩石を溶かしながら地中深く浸透していき、そこには太陽の光も届かない。

地球の奥深くでは高熱のマグマが煮えたぎり、地上に出ようとじりじりしている。

マグマは爆発して山々の裂け目から炎を吹き上げる。炎の門を。

山々は轟音を響かせて燃える塊を吐き出して、人間や動物や植物を滅ぼす。なんとひどいことか。

諸海もまた海中深く激しく揺れ動くが、地球はそれをすでに久しく感じていた。

無残な火山の火が世界の姿を引き裂き、至るところで恐怖の叫びが轟く。

だがそれでも足りないばかりに、火災が起こり、それと相前後して地震が駆け巡る。

それらは破壊し、轟き、すべてを滅ぼす。誰もこの災厄を鎮めることはできない。

人々が沈み行く大地の上で助けを求めている時、海には新しい島が生まれ出る。

アメリカの原住民が住む南国では、すでに最初の破壊の時が始まっている。

この国は近い将来にひどい目に遭うだろう。黒い人間が希望する国もそうだ。

ヨーロッパも災厄から無事ではいられない。なぜならここでも大地の下に地獄が住んでいるから。

長靴の国では非常に悲しい出来事が話題になるだろう。地上の金に祝福された国々も同様である。桜の国も震撼させられ、堀に作られた都市は完全に埋もれるだろう。

剣獅子の民族も国も被害を被り、半月の中の星も例外ではない。神々の国もひどい目に遭う。竜の国も平和を願う国も。その時火山の炎は地獄の輝きを放ち、多くの大地で地震がすべてを

引き裂く。

それは近い将来起こる。何千という死者の苦悶の声が始まり、死にゆく者たちが恐怖の時代を告げる。

中南米の大地の南では最初に地震が多く人命を奪い、次いで火山の炎が容赦なく燃え盛る。近い将来、それは大きな災厄をもたらす。そして地球全体が死に装束で包まれる。

私がここに書き留めるように、やがてそのようになるであろう。地球人よ、今正すのだ。

人間が天国を理解できるようになるためには、
まず地獄を体験しなければならない。

UFO

頑固な懐疑主義者にとってUFOもしくはUFO目撃は全然問題にならない。なぜなら彼らの意見では、それはどんな場合でも錯覚にすぎないか、あるいは雲、鳥の群れ、ヘリコプター、スポーツ気球、気象観測気球、隕石、流星、ロケット、衛星、昆虫の群れなどと取り違えたものだからである。懐疑主義者や批判者の中でも特に悪質な連中は、すべては詐欺や嘘、欺瞞やいかさまの作り話であって、冗談か名誉欲か営利欲から世間に流したなどと主張する。こうした主張や説明は、残念ながら必ずしも簡単に退けることはできない。というのもまさしくUFO研究の分野では非常に多くの嘘や欺瞞、いかさまや詐欺が行われているからである（冊子『偽コンタクティー』参照）。チャネリングや自称降霊会などがその例である。その理由はいろいろあり、名誉欲やイメージアップを狙うものから、さまざまな欺瞞に支援された教派主義にまで及ぶ。これらの二つのグループに対して、非常に多くの無批判的なUFO肯定派の一群がいる。彼らはことUFOに関することなら、吟味することも熟考することもなく何もかも簡単に信じる。これはUFO信者のグループで、UFOの乗組員を無批判的、教派的に天使や、「主」や救世主や神の使いと見なす。彼らはコントロールの利かない自分自身の願望的思考の信心深い犠牲者

であり、地球外生命体に「宇宙的同胞愛」の精神化された存在を見ている。それらの地球外生命体は、地球人をそれ自身の没落から救い、「主と救世主の道」へと連れ戻すために地球にやって来るといふ。まさにUFO肯定派の大多数はこのグループに属している。彼らは政治的および経済的な混乱、戦争、無政府主義、外国人排斥や人種差別、テロなどに対して不安を抱いている人間である。実際、彼らの間では、いわゆる地球外のUFOの乗組員や霊的存在などから伝えられたという、自称コンタクティーの多数の混乱した救いのメッセージが大きな反響を呼ぶ。

上に挙げた懐疑主義者や批判者、詐欺師、いかさま師、嘘つき、ペテン師および信者のほかにも、先入観に囚われず冷静で客観的にUFO現象と向き合う少数の人々のグループもある。彼らは、MUFONやCENAPにおけるように、自分のことをUFO研究者またはUFO学者であると思込み、その実UFOに関して自分に都合のいい事柄しか認めようとし、連中と混同されてはならない。すなわち本当のUFO学者はUFO現象の真の解明と取り組んでおり、それゆえMUFONやCENAPの自称UFO研究者とも、アームストロングなどのようにUFOの帝王を自認する連中と一緒にたにされてはならない。彼らはまたUFO教派主義者の盲信ともまったく関係ない。UFO教派主義者は雨後の竹の子のように現れては、UFO教派のナンセンスや愚行によって人間を狂わせ、それによって非常に多くの災厄をなすとともに、UFOに関連する事柄を笑いものにしている。しかし信者や自称UFO学者、詐欺師やペテン師の教派的または否定的な行為とは反対に、まじめに取り組んでいる真のUFO研究者も存在する。彼らはUFO事件の正確な記録も豊富に持っている。それらはまじめな目撃者によって広く認証され、UFOとその現象が本当に空に存在することを証明するものであり、かなり以前からもはや否認できないものとなっている。それにもかかわらず軍や官庁や諜報機関はいまだにこれを躍起になって否定しようとしている。その理由は何よりも、彼らが墜落したUFOと、たいていの場合死亡した乗組員を確保して保有しているからである。地球人の策謀や地球の飛行装置が原因であるとは言えない現象

が空で起きていることも、未確認飛行物体が出現していることも、ずいぶん前から否定できなくなっている。これらすべての事柄は地球の常識では説明がつかない。しかも墜落して確保されたUFOと死んだ乗組員は、それらの起源が地球外であることを疑う余地なく証明しているのだ。このことはとりわけライト・パターソン空軍基地などに何機もの墜落したUFOと死んだ乗組員を保管しているアメリカ人が証明できるはずである。その上彼らは自分たちでUFOを真似て作ろうと努力している。しかもその努力がかなりの成果を上げたことは、ネバダ砂漠にある米軍空軍基地エリア 51で行われたUFO飛行操縦またはUFOテスト飛行が証明しているとおりである。

本当の専門家に語らせたなら、彼らはUFO（未確認飛行物体）とそれらの外観、飛行軌道、飛行操縦、運動全般および発光性質（ルミネセンス：温度の上昇を伴わない物質の発光）は、従来の概念では説明できないと言うだろう。地球外に起源を持つ宇宙船であるUFOは、光速でしか測ることのできない途轍もない星間距離を移動しなければならない（ゾル太陽系以外で地球に最も近い恒星であるアルファ・ケンタウリは地球から4.5光年離れている。1光年は9.5兆キロメートルである。これは光が秒速299792.458キロメートルで1年かかる距離である）。したがって遠い天体の未知の世界から宇宙船が地球にやって来る時、それらは地球人から見ればほとんど想像を超える距離を移動しなければならないのである。このような距離を克服できるようになるためには、それに必要なすべての可能性を探求し、評価して、有用な形に転換しなければならない。そのためには物理学とテクノロジーの分野だけでなく、人間の体および意識と心にとっても必要な能力と可能性が与えられていなければならない。しかしこれは現在まだ地球人の理解を超えており、その技術的および物理学的な可能性の枠も超えている。それゆえ地球人は未知の太陽系に宇宙飛行する可能性をいまだに受け入れず、そのような距離を移動するのは不可能だと信じている。あるいはたとえ可能だとしても、それは何年か、あるいは何十年かかかると思っている。それにもかかわらず地球外生命体は何千年も前から、我々がUFOと呼ぶ飛行装置に乗

って地球にやって来た。そしてそれらのうちの何機かが墜落するということが繰り返し起きた。近代ではそれらの一部は(特にアメリカで)死亡した乗組員と共に発見されている。それらはいかにも異様でエキゾチックな印象と外見をしていたが、疑いもなく申し分のないヒューマノイド、すなわち人間であった。

特に近年、20世紀には、UFO現象は世の中で重要な位置を占めるようになり、科学にとって最大の挑戦の一つであることは疑いない。今なおUFOは嘲笑されたり、まったく無視されたりしているが、それは変わるだろう。こうした嘲笑と無視の理由の一つは、UFOが墜落し、死亡または瀕死の乗組員と共に確保されたというUFO現象を、軍や官庁や諜報機関が否認しているからである。しかしもう一つの理由は、軍や官庁や諜報機関が、そしてまたラジオやテレビや新聞などがUFO現象を茶化して、市民を真理から遠ざけ、無知な状態に眠らせておくためである。しかし全体としてみるならば、ナンセンスと愚行によってUFO現象のすべてに不真面目でうさん臭い印象を与えているのは、主として教派主義的な自称UFOコンタクティーである。もちろんそうしたことは懐疑的・批判的で、たいてい何でもぶちこわす不真面目なジャーナリズムによってずたずたに切り刻まれる。こうして一切のものが根本的な連関から引き裂かれ、書きなぐられて新聞雑誌に報道される。そのよって立つ原理は、嘘は真理よりも多くの読者をもたらしこと、そして書きなぐりジャーナリズムは、健全で真実で正確な報告より儲かるということである。しかしこれこそジャーナリズムの本来のスローガンであったはずだが、今日ではそれが固有の価値を持つことは稀である。

1975年以來、UFOの件に関して非常に多くのことが起きた。UFOがますます頻繁に出現するようになり、UFOの大きな波を呼び起こしただけではない。かつて秘密または極秘扱いにされていた大量のUFO関連資料が公開され、UFOおよびその目撃や墜落などに関する本当の事実が明るみに出たこともある。実際、いまだに隠蔽され秘密にされているものもあるが、それらの文書は非常に印象深い文書である。しかしこれらの秘密文書から非常にはっきりするのは、地球上のあらゆる国の政府、これ

に関しては特に大国の政府が大変な不安を感じており、すでにかなり以前からUFOが出現するとそのような反応を示してきたということである。きわめて明らかなのは、政府にとっては、諜報機関や軍などと共に、宇宙から空飛ぶ円盤、球、葉巻あるいは三角形をした装置などに乗って侵入してくる存在は どうでもいいものではなく、たとえ恐怖とまではいかななくても、不安を掻き立てるものなのである。その理由は何よりも、彼らが墜落したUFOとその死亡または瀕死の乗組員を捕らえ、その結果、地球外生命体があらゆる点で自分たちよりはるかに優れているという認識を得たからにはほかならない。

私は平静でいられない。

人間が人間を憎む時

人間が殺人や戦争をする時

そして死がすべての生命に襲いかかる時。

ああ人間よ、私はお前に愛をもたらしことができるだろうか。

創造の最も美しい贈り物を与えることが。

私は力づくでお前の中に入り込み

お前に平和と知識の技を与えることができるだろうか。

人間よ、私はお前のために何でもしよう。

けっして憩い休むことはない。

愛がいつか実を結び

お前が自分の良き行いの内に安らぐことを願って。

私が死んでいなくなる時

きっとお前はくびきから解き放たれているだろう。

それはお前が自ら課したのだ

いつか真理と愛を見出すことを求めて。

ビリー

1978年9月19日 15時24分

セミヤーゼ・シルバー・スター・センター

(出典：UFOs Raumschiffe von fremden Welten)

出版物のご案内

■ プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■ プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■ プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■ プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)

価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)

■ 心

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■ 瞑想入門

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■ わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■ 生命の哲学

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■ 日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■ 第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ 霊と肉体における生

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■ 瞑想用携帯ピラミッド



瞑想用携帯ピラミッド

銅製 高さ 23cm・幅 15cm
重量 : 450g

平和瞑想に関する DVD
および取扱説明書付き
定価 : 28,000 円 (送料・
税込み)

※ 7 月 1 日現在の在庫は
15 個です。

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円 500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円 1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円 2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円 3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号 : 00160-4-655758

加入者名 : FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額 : 送料を含めた合計金額

払込人 : あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄 : 購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 35 号 (無料)

発行日 2008 年 7 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2008 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.